

| | | | |
|---|-----------------------|---------------------|-----------------------|
| 授業科目名： 社会の理解 | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 2単位 (講義) | 担当教員名：小林 根 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 人間と社会 (社会の理解) | | |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士 (特別養護老人ホーム・5年) | | |
| 授業の到達目標及びテーマ | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1 日本の高齢者福祉の現状把握と、高齢者が抱える諸問題を理解できるようにする。 2 福祉の法制度や介護保険の体系について理解を深め、それを実習等の実践の場で活用できるようにする。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉制度と生活の関係を理解した上で、高齢者を取り巻く状況と社会的背景について学ぶ。 2 社会保障にかかわる制度を広く理解する。 3 老人福祉法、老人保健法および介護保険制度の概要とサービスの体系、内容および手続き等、具体的な実践活動を理解させる。 | | | |
| 授業計画 | | | |
| 第1回：生活と福祉（家族と地域社会の抱える諸問題） | | | |
| 第2回：少子高齢社会の到来と意義（人口高齢化の要因[平均寿命の伸長と合計特殊出生率の低下]） | | | |
| 第3回：高齢者を取り巻く諸問題（高齢者の健康不安） | | | |
| 第4回：高齢者を取り巻く諸問題（家族介護者の現状） | | | |
| 第5回：高齢者のための総合対策（高齢者のための社会保障制度[生活保護制度の概要]） | | | |
| 第6回：障害者を取り巻く諸問題（障害者自立支援法の現状について） | | | |
| 第7回：障害者の就労状況・経済状況および家族・地域社会の現状 障害者自立支援法の支援サービスの他系（施設サービスと居宅サービス） | | | |
| 第8回：老人福祉法（理念と目的・および概要） | | | |
| 第9回：老人福祉法（給付サービスの体系） | | | |
| 第10回：介護保険制度（介護保険法の概要） | | | |
| 第11回：介護保険制度（給付サービスの体系） | | | |
| 第12回：介護実践に関連する諸制度（保健・医療・福祉に関する施策） 老人保健法の概要と保健事業 | | | |
| 第13回：介護実践に関連する諸制度（個人の人権を守る制度） 成年後見制度と個人情報保護法 | | | |
| 第14回：介護実践に関連する諸制度（介護と関連領域との連携に必要な法規） 年金制度と高齢者雇用制度 | | | |
| 第15回： 授業のまとめとテスト | | | |
| テキスト | | | |
| 介護福祉士国試ナビ 中央法規出版 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 介護福祉士受験ワークブック（上）中央法規出版 | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| 筆記試験を行う。 | | | |
| 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とし、単位を認定する。 | | | |

| | | | |
|---|-----------------------|---------------------|------------------------|
| 授業科目名： 介護の基本A（前期） | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 2単位 （講義） | 担当教員名：生井 美奈 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護（介護の基本） | | |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士（通所介護・9年） | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>介護福祉士誕生にいたる歴史的背景を理解し、その上で現在の介護福祉士を取り巻く社会状況を認識できる。 介護福祉士に求められる社会的役割を理解する</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>介護を必要とする人の尊厳ある生活を支援する専門職としての基本的な考え方を学ぶ 介護とは何か、介護福祉士の役割とは何かの理解を目指し、講義だけでなくグループディスカッションやレポート作成を取り入れ、多角的に学んでいく。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション「介護の基本A」を学ぶ必要性・意義 介護とは 第2回：介護福祉士を取り巻く状況 介護福祉の理念 第3回：介護福祉士を取り巻く状況 介護の歴史 第4回：介護福祉士を取り巻く状況 介護の社会化 第5回：介護福祉士を取り巻く状況 要介護者の状況 第6回：介護福祉士の役割と機能を支える仕組み 介護問題の背景 第7回：介護福祉士の役割と機能を支える仕組み 社会福祉士及び介護福祉士法 第8回：介護福祉士の役割と機能を支える仕組み 求められる介護福祉士像 第9回：介護福祉士の役割と機能を支える仕組み 関係諸制度について 第10回：尊厳を支える介護 ノーマライゼーションの理念 第11回：尊厳を支える介護 利用者主体・自己実現 第12回：尊厳を支える介護 尊厳を支える介護 尊厳と基本的人権 第13回：尊厳を支える介護 QOLの考え方 第14回：尊厳を支える介護 利用者本位・その人らしさとは 第15回：まとめ 授業総括</p> <p>定期試験</p> | | | |
| テキスト 最新介護福祉全書「介護の基本」 メヂカルフレンド社 | | | |
| 参考書・参考資料等 介護福祉士国家試験受験ワークブック上 | | | |
| <p>学生に対する評価</p> <p>①出欠・遅刻・早退状況 ②筆記試験 以上の2つの観点から総合的に評価する （60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とする）</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------------------|---------------------|------------------------|
| 授業科目名： 介護の基本A（後期） | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 2単位 （講義） | 担当教員名：生井 美奈 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護（介護の基本） | | |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士（通所介護・9年） | | |
| 授業の到達目標及びテーマ 介護の基本理念としての「自立支援」の考え方を理解する 介護サービス利用者はなぜ介護を必要としているのかを多角的に理解する | | | |
| 授業の概要 介護を必要とする人の尊厳ある生活を支援する専門職としての基本的な考え方を学ぶ 介護とは何か、介護福祉士の役割とは何かの理解を目指し、講義だけでなくグループディスカッションやレポート作成を取り入れ、多角的に学んでいく | | | |
| 授業計画 第1回：オリエンテーション「介護の基本A」の授業展開について 第2回：介護を必要とする人の理解 人間の多様性について 第3回：介護を必要とする人の理解 高齢者の暮らしの実際 第4回：介護を必要とする人の理解 障害者の暮らしの実際 第5回：介護を必要とする人の理解 社会的な生活支援の視点 第6回：介護を必要とする人の理解 文化的な生活支援の視点 第7回：介護を必要とする人の理解 生活環境の整備 第8回：自立に向けた介護 自立とは 第9回：自立に向けて介護 自己決定 自己選択の意味と意義 第10回：自立に向けた介護 ICFの概念に基づいた自立支援 第11回：自立に向けた介護 リハビリテーションの概念 第12回：自立に向けた介護 介護におけるリハビリテーションの視点 第13回：自立に向けた介護 介護予防の視点 第14回：自立に向けた介護 事例検討 第15回：まとめ 授業総括 定期試験 | | | |
| テキスト 最新介護福祉全書「介護の基本」 メヂカルフレンド社 | | | |
| 参考書・参考資料等 介護福祉士国家試験受験ワークブック上 | | | |
| 学生に対する評価 ①出欠・遅刻・早退状況 ②筆記試験 以上の2つの観点から総合的に評価する (60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とする) | | | |

| | | | |
|--|-----------------------|---------------------|------------------------|
| 授業科目名： 介護の基本B（前期） | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 2単位 （講義） | 担当教員名：生井 美奈 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護（介護の基本） | | |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士（通所介護・9年） | | |
| 授業の到達目標及びテーマ 専門職として介護福祉士に求められる社会的役割を理解する 要介護者を取り巻く状況を理解し、生活上の課題の解決に向けての知識を習得する | | | |
| 授業の概要 介護福祉士を取り巻く課題について広い視野から考え、知識の習得だけでなく、自分の考えを伝える、まとめていく力をつける | | | |
| 授業計画 第1回：介護従事者の倫理 専門職としての倫理 第2回：介護従事者の倫理 介護実践で求められる倫理 第3回：日本介護福祉士会倫理綱領について 第4回：介護サービスについて 介護サービスの特性について 第5回：介護サービスについて 介護サービスとケアマネジメント 第6回：介護サービスについて ケアプラン・ケアマネジメントの流れとしくみ 第7回：介護サービスについて 介護保険のサービスの種類と報酬、算定基準 第8回：介護サービスについて 介護サービス提供の場の特性①在宅・訪問系サービス 第9回：介護サービスについて 介護サービス提供の場の特性②通所系サービス 第10回：介護サービスについて 介護サービス提供の場の特性③グループホーム 第11回：介護サービスについて 介護サービス提供の場の特性④介護老人福祉施設・介護老人保健施設 第12回：介護サービスについて 介護サービス提供の場の特性⑤障害者（児）施設 第13回：介護サービスについて 介護サービス提供の場の特性⑥特定施設 第14回：介護サービスについて 介護サービス提供の場の特性⑦介護予防サービス 第15回：まとめ・授業総括 定期試験 | | | |
| テキスト 最新介護福祉全書「介護の基本」 メヂカルフレンド社 | | | |
| 参考書・参考資料等 介護福祉士国家試験受験ワークブック上 | | | |
| 学生に対する評価 ①出欠・遅刻・早退状況 ②筆記試験 以上の2つの観点から総合的に評価する （60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とする） | | | |

| | | | |
|--|-----------------------|---------------------|------------------------|
| 授業科目名： 介護の基本B（後期） | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 2単位 (講義) | 担当教員名：生井 美奈 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護（介護の基本） | | |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士（通所介護・9年） | | |
| 授業の到達目標及びテーマ 専門職として介護福祉士に求められる社会的役割を理解する 要介護者を取り巻く状況を理解し、生活上の課題の解決に向けての知識を身につける | | | |
| 授業の概要 介護福祉士を取り巻く課題について広い視野から考え、知識の習得だけでなく、自分の考えを伝える、まとめていく力をつける | | | |
| 授業計画 第1回：介護実践における連携 介護を実践するための多職種連携の必要性について 第2回：介護実践における連携 多職種連携の意義と目的 第3回：介護実践における連携 他の福祉職種の機能と役割について 第4回：介護実践における連携 保健医療職種の機能と役割、連携について 第5回：介護実践における連携 施設内での多職種連携について 第6回：介護実践における連携 地域連携について①地域連携の意義と目的 第7回：介護実践における連携 地域連携について②社会資源 第8回：利用者の人権と介護 身体拘束について①身体拘束とは 第9回：利用者の人権と介護 身体拘束について②身体拘束を行わない為に 第10回：利用者の人権と介護 高齢者虐待・高齢者虐待防止法 第11回：利用者の人権と介護 障害者虐待・障害者虐待防止法 第12回：利用者の人権と介護 児童虐待・児童虐待防止法 第13回：利用者のプライバシー保護 個人情報保護・個人情報保護法 第14回：利用者のプライバシー保護 プライバシー保護まとめ 第15回：まとめ・授業総括 定期試験 | | | |
| テキスト 最新介護福祉全書「介護の基本」 メヂカルフレンド社 | | | |
| 参考書・参考資料等 介護福祉士国家試験受験ワークブック上 | | | |
| 学生に対する評価 ①出欠・遅刻・早退状況 ②筆記試験 以上の2つの観点から総合的に評価する (60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とする) | | | |

| | | | |
|---|-----------------------|---------------------|-----------------------|
| 授業科目名： 介護の基本C（前期） | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 2単位 （講義） | 担当教員名：小林 根 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護（介護の基本） | | |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士（特別養護老人ホーム・5年） | | |
| 授業の到達目標及びテーマ 介護における安全の確保の重要性を理解し具体的場面でセーフティマネジメントが展開できるようになる。 介護従事者の安全、健康管理のための知識、技術を身につける。 | | | |
| 授業の概要 介護における安全を確保するための知識・技術・事故防止や安全の対策、感染予防、緊急時対応、介護従事者の健康管理等について、施設や在宅での具体例、実習体験をもとに展開する。 | | | |
| 授業計画 第1回：オリエンテーション 本科目の位置づけや意義、目的 第2回：介護における安全の確保 介護における安全の確保の重要性 第3回：介護における安全の確保 リスクマネジメントとは 第4回：介護における安全の確保 事故報告書・危険予知トレーニングシートの作成 第5回：介護における安全の確保 事故の原因とその対策について グループワーク 第6回：安全確保のためのリスクマネジメント 施設で起こりやすい事故の要因 第7回：安全確保のためのリスクマネジメント 在宅で起こりやすい事故の要因 第8回：安全のためのリスクマネジメント 利用者の尊厳とリスクマネジメント 第9回：事故防止・安全対策 事故防止・安全対策のためのリスクマネジメントのしくみ 第10回：事故防止・安全対策 ヒヤリ・ハットについて 日常生活で体験したヒヤリ・ハット 第11回：事故防止・安全対策 ヒヤリ・ハット報告書から安全対策を考える 第12回：緊急時対応 緊急・事故対応の実際 第13回：防火・防災対策 施設における防災対策について 第14回：防火・防災対策 在宅・地域における防災対策について 第15回：まとめ・授業総括 定期試験 | | | |
| テキスト 最新介護福祉全書「介護の基本」メヂカルフレンド社 | | | |
| 参考書・参考資料等 介護福祉士国家試験受験ワークブック上 | | | |
| 学生に対する評価 ①出欠・遅刻・早退状況 ②筆記試験又はレポート課題以上2つの観点から総合的に評価する （60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とする） | | | |

| | | | |
|--|----------------------|---------------------|-----------------------|
| 授業科目名： 介護の基本C（後期） | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 （講義） | 担当教員名：小林 根 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護（介護の基本） | | |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士（特別養護老人ホーム・5年） | | |
| 授業の到達目標及びテーマ 介護における安全の確保の重要性を理解し具体的場面でセーフティマネジメントが展開できるようになる。 介護従事者の安全、健康管理のための知識、技術を身につける。 | | | |
| 授業の概要 介護における安全を確保するための知識・技術・事故防止や安全の対策、感染予防、緊急時対応、介護従事者の健康管理等について、施設や在宅での具体例、実習体験をもとに展開する。 | | | |
| 授業計画 第1回：諸外国における介護福祉 イギリスの介護福祉 第2回：諸外国における介護福祉 ドイツの介護福祉 第3回：諸外国における介護福祉 デンマークの介護福祉 第4回：諸外国における介護福祉 スウェーデンの介護福祉 第5回：諸外国における介護福祉 日本の介護と諸外国の介護との比較 第6回：介護従事者の安全 健康管理の意義と目的 第7回：介護従事者の安全 こころの健康管理①（ストレスについて） 第8回：介護従事者の安全 こころの健康管理②（燃え尽き症候群） 第9回：介護従事者の安全 こころの健康管理③（スーパービジョン） 第10回：介護従事者の安全 介護福祉士としての健康管理対策を考える 第11回：介護従事者の安全 身体の健康管理（腰痛予防と対策） 第12回：介護従事者の安全 労働安全について 第13回：介護従事者の安全 安心して働ける職場作りについてグループディスカッション 第14回：介護従事者の安全 安全対策マニュアルの作成・発表 第15回：まとめ・授業総括 定期試験 | | | |
| テキスト最新介護福祉全書「介護の基本」メヂカルフレンド社 | | | |
| 参考書・参考資料等 介護福祉士国家試験受験ワークブック上 | | | |
| 学生に対する評価 ①出欠・遅刻・早退状況 ②筆記試験又はレポート課題以上2つの観点から総合的に評価する （60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とする） | | | |

| | | | |
|--|-----------------------|---------------------|------------------------|
| 授業科目名 コミュニケーション技術A | 学則に定める必修/選択の別 必修科目 | 単位数： 1単位 (演習) | 担当教員名：稲富 正治 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護 (コミュニケーション技術) | | |
| 担当教員の実務経験 | | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>対人援助職として円滑なコミュニケーション技術を身につける。 介護におけるチームのコミュニケーションに必要な記録や報告等について、その技術を習得する。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>ロールプレイ、グループディスカッション、ワーク等を体験しながら、介護場面で活用できる具体的なコミュニケーション技術習得する また記録、報告、会議の方法について実践から学んでいく。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 授業概要の説明、アイスブレイク、自己紹介 第2回：介護におけるコミュニケーションの基本 介護におけるコミュニケーションの意義と目的、信頼関係を成立させるということ 第3回：介護におけるコミュニケーションの基本 援助者としての自己理解 (自己覚知) 第4回：介護におけるコミュニケーションの基本 価値観と他者への理解 第5回：介護におけるコミュニケーションの基本 話を聴く技法 (傾聴訓練) 第6回：介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 受容と共感 第7回：介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 家族とのコミュニケーション 第8回：介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 障害のある利用者とのコミュニケーション 第9回：介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション プロセスレコードからの自己覚知と他者理解 第10回：介護におけるチームのコミュニケーション 報告、記録の方法 第11回：介護におけるチームのコミュニケーション 会議の方法、留意点 第12回：介護におけるチームのコミュニケーション カンファレンスの方法 第13回：その他のコミュニケーション技法 プレゼンテーションの方法 第14回：その他のコミュニケーション技法 アサーション 第15回：まとめと定期試験 対人援助職として習得しなければならないコミュニケーション技術について</p> | | | |
| <p>テキスト</p> <p>「介護スタッフのためのケア・コミュニケーション」 (株)ウイネット</p> | | | |
| <p>参考書・参考資料等</p> | | | |
| <p>学生に対する評価</p> <p>筆記試験 60～69点 「可」 ・70～79点 「良」 ・80点以上を 「優」 とし、単位を認定する。</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------------------|--------------------|--------------------------------------|
| 授業科目名 コミュニケーション技術B | 学則に定める必修/選択の別 必修科目 | 単位数 1単位 (演習) | 担当教員名： 高山香奈江・前中 郁・安東茂樹 担当形態：複数 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護 (コミュニケーション技術) | | |
| 担当教員の実務経験 | | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>コミュニケーション技術Aで習得した介護におけるコミュニケーションの基本を活用し、自分を表現する力、他者を理解する力を身につける。</p> <p>グループ内でのサポータティブな関係作りの実践方法とグループ運営ができるようになる。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>コミュニケーション障害のある利用者の理解を深め、コミュニケーション技術習得のために手話、点字等を学ぶ。</p> <p>高齢者とのコミュニケーション技術としての回想法の実際の理論と実践を学ぶ。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技法の実際 手話に関する基礎知識</p> <p>第2回：利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技法の実際 手話で会話する</p> <p>第3回：利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技法の実際 手話で歌う</p> <p>第4回：利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技法の実際 シニアサイン</p> <p>第5回：利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技法の実際 手話で会話する (実技テスト)</p> <p>第6回：介護場面における利用者、家族とのコミュニケーション 音楽療法の基礎理論</p> <p>第7回：介護場面における利用者、家族とのコミュニケーション 音楽療法の進め方 (音楽療法プログラムの作り方)</p> <p>第8回：介護場面における利用者、家族とのコミュニケーション 音楽を用いた回想コミュニケーション</p> <p>第9回：介護場面における利用者、家族とのコミュニケーション 介護現場での音楽療法の実際</p> <p>第10回：介護場面における利用者、家族とのコミュニケーション 実技演習と筆記テスト</p> <p>第11回：利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技法の実際 社会福祉施設におけるコミュニケーションの実際 (高齢者とのコミュニケーション)</p> <p>第12回：利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技法の実際</p> | | | |

社会福祉施設におけるコミュニケーションの実際（認知症の人とのコミュニケーション）

第13回：利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技法の実際

介護実習振り返り・実習でのコミュニケーション体験をグループワークで共

第14回：利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技法の実際

グループワークで抽出した介護実習での事例を用いてロールプレイング

第15回：利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技法の実際

確認テストおよび授業のまとめ

テキスト

「身ぶり手ぶりで楽楽コミュニケーション」中央法規出版

「介護予防＋認知症予防プログラム 歌あそび・歌体操」あおぞら音楽社

参考書・参考資料等

学生に対する評価

レポート・実技試験

60～69点「可」・70～79点「良」・80点以上を「優」とし、単位を認定する。

| | | | |
|---|-----------------------|---------------------|------------------------|
| 授業科目名： 生活支援技術A | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 1単位 (演習) | 担当教員名：生井 美奈 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護 (生活支援技術) | | |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士 (通所介護・9年) | | |
| 授業の到達目標及びテーマ 生活の概念や生活支援の考え方を理解できる 個別性を尊重した自立支援の方法が分かる 根拠に基づいた生活支援の必要性について理解できる | | | |
| 授業の概要 介護を必要とする人の生活をアセスメントし、根拠のある自立に向けての支援について学ぶ | | | |
| 授業計画 第1回：生活とは何か 第2回：コミュニケーション・声かけの意義・目的 第3回：環境整備の意義・目的 ベッドメイキングの必要性 第4回：移動・移乗介助の意義・目的 第5回：清潔行為介助の意義・目的 第6回：食事介助の意義・目的 第7回：衣服着脱介助の意義・目的 第8回：排泄介助の意義・目的 第9回：福祉用具の活用の意義・目的 介護保険制度の利用 福祉用具の種類 第10回：福祉用具の活用の意義・目的 バリアフリー・ユニバーサルデザインについて 第11回：ICFに基づいた生活支援 ICFの概要 第12回：ICFに基づいた生活支援 アセスメントについて 第13回：ICFに基づいた生活支援 よくする介護を考える 第14回：介護予防の視点における生活支援 第15回：まとめ・授業総括 定期試験 | | | |
| テキスト 新・介護福祉士養成講座生活支援技術I 中央法規出版 | | | |
| 参考書・参考資料等 介護福祉士国家試験受験ワークブック下 | | | |
| 学生に対する評価 出欠・遅刻・早退状況と筆記試験を総合的に評価する (60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とする) | | | |

| | | | |
|--|-----------------------|---------------------|------------------------|
| 授業科目名： 生活支援技術 B（前期） | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 2単位 （演習） | 担当教員名：生井 美奈 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護（生活支援技術） | | |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士（通所介護・9年） | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>個別性を尊重した自立支援の方法がわかる</p> <p>日常生活における基本的介護技術が習得できる</p> <p>安全・安楽・快適な介護が実践できる</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>自立へ向けての生活支援とは何かを考え、根拠に基づいた様々な生活場面での具体的支援方法を身につける</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：ベッドメイキング</p> <p>第2回：臥床したままのシーツ交換</p> <p>第3回：移動・移乗の介助</p> <p>第4回：車いす操作・介助</p> <p>第5回：食事介助</p> <p>第6回：口腔ケア</p> <p>第7回：衣服着脱の介助（座位）</p> <p>第8回：衣服着脱の介助（臥床）</p> <p>第9回：整容の介助（洗面・整髪・つめ・ひげの手入れ）</p> <p>第10回：排泄の介助 トイレ介助</p> <p>第11回：排泄の介助 オムツ交換介助</p> <p>第12回：清潔保持の介助 手浴・足浴</p> <p>第13回：清潔保持の介助 特殊浴槽の扱い方・体験</p> <p>第14回：事例検討・事例演習</p> <p>第15回：まとめ・授業総括</p> <p>定期試験</p> | | | |
| テキスト 新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版 | | | |
| 参考書・参考資料等 介護福祉士国家試験受験ワークブック下 | | | |
| <p>学生に対する評価</p> <p>出欠、遅刻、早退状況と筆記試験及び実技試験を総合的に評価する （60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とする）</p> | | | |

| | | | |
|--|----------------------|---------------------|------------------------|
| 授業科目名： 生活支援技術 B（後期） | 教員の免許状取得のための 必修科目 | 単位数： 2単位 (演習) | 担当教員名：生井 美奈 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護（生活支援技術） | | |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士（通所介護・9年） | | |
| 授業の到達目標及びテーマ 多様な利用者の状態に対して介護が実践できるように応用ができる 安全・安楽・快適な介護が実践できる 余暇活動の意義と目的を理解し、レクリエーションの実践ができる | | | |
| 授業の概要 自立へ向けての生活支援とは何かを考え、根拠に基づいた様々な生活場面での具体的支援方法を身につける | | | |
| 授業計画 第1回：ベッドメイキング 応用編（1人で行うシーツ交換） 第2回：移動・移乗介助 応用編（二人介助が必要なケース・福祉用具を活用した介助） 第3回：清潔保持の介助 洗髪介助 第4回：清潔保持の介助 全身清拭 第5回：衣服着脱の介助 応用編（身体障害を伴う利用者への介助） 第6回：排泄介助 応用編 陰部・臀部清拭 第7回：排泄介助 事例検討（実習で体験したオムツ交換の方法の振り返り） 第8回：排泄介助 ポータブルトイレ・差込便器等の福祉用具を活用した介助 第9回：レクリエーションの基本的理解 第10回：介護現場におけるレクリエーション活動の実際 第11回：レクリエーションの実践 前半 グループディスカッション 第12回：レクリエーションの実践 後半 グループ発表・フィードバック 第13回：事例検討・事例演習 グループディスカッション 第14回：事例検討・事例演習 グループ発表 第15回：まとめ・授業総括 定期試験 | | | |
| テキスト 新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版 | | | |
| 参考書・参考資料等 介護福祉士国家試験受験ワークブック下 | | | |
| 学生に対する評価 出欠、遅刻、早退状況と筆記試験及び実技試験を総合的に評価する (60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とする) | | | |

| | | | |
|--|-----------------------|---------------------|-----------------------|
| 授業科目名： 生活支援技術C（前期） | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 1単位 （演習） | 担当教員名：佐藤大輔 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護（生活支援技術） | | |
| 担当教員の実務経験 | | | |
| 授業の到達目標及びテーマ 要介護者となった者の支援を実施するための留意点や方法を習得する。 | | | |
| 授業の概要 疾病、老化、障害など様々な理由によって介護が必要になる。要介護者を支援するために必要なエビデンスと方法を学習する。 | | | |
| 授業計画 第1回：障害児・者の生活支援 第2回：運動機能障害のある対象の生活支援技術 第3回：内部障害のある対象の生活支援技術（心臓機能障害1） 第4回：内部障害のある対象の生活支援技術（心臓機能障害2） 第5回：内部障害のある対象の生活支援技術（呼吸機能障害1） 第6回：内部障害のある対象の生活支援技術（呼吸機能障害2） 第7回：内部障害のある対象の生活支援技術（腎臓機能障害1） 第8回：内部障害のある対象の生活支援技術（腎臓機能障害1） 第9回：内部障害のある対象の生活支援技術（膀胱機能障害） 第10回：内部障害のある対象の生活支援技術（直腸機能障害） 第11回：視覚障害のある対象の生活支援技術 第12回：聴覚障害のある対象の生活支援技術 第13回：認知症のある対象の生活支援技術1 第14回：認知症のある対象の生活支援技術2 第15回：試験とその解説・国家試験対策 定期試験 | | | |
| テキスト 介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 中央法規出版 | | | |
| 参考書・参考資料等 なし | | | |
| 学生に対する評価 試験 100% 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とし、単位を認定する。 | | | |

| | | | |
|--|-----------------------|---------------------|-----------------------|
| 授業科目名： 生活支援技術C（後期） | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 1単位 （演習） | 担当教員名：佐藤大輔 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護（生活支援技術） | | |
| 担当教員の実務経験 | | | |
| 授業の到達目標及びテーマ 要介護者となった者の支援を実施するための留意点や方法を習得する。 | | | |
| 授業の概要 疾病、老化、障害など様々な理由によって介護が必要になる。要介護者を支援するために必要なエビデンスと方法を学習する。 | | | |
| 授業計画 第1回：脳血管障害のある対象の生活支援技術1 第2回：脳血管障害のある対象の生活支援技術2 第3回：高次脳機能障害のある対象の生活支援技術1 第4回：高次脳機能障害のある対象の生活支援技術2 第5回：言語障害のある対象の生活支援技術1 第6回：言語障害のある対象の生活支援技術2 第7回：発達障害のある対象の生活支援技術 第8回：知的障害のある対象の生活支援技術 第9回：精神障害のある対象の生活支援技術1 第10回：精神障害のある対象の生活支援技術2 第11回：精神障害のある対象の生活支援技術3 第12回：終末期にある対象の生活支援技術 第13回：難病のある対象の生活支援技術 第14回：重症心身障害児・者の生活支援技術 第15回：試験とその解説・国家試験対策 | | | |
| テキスト 介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 中央法規出版 | | | |
| 参考書・参考資料等 なし | | | |
| 学生に対する評価 試験100% 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とし、単位を認定する。 | | | |

| | | | |
|---|-----------------------|---------------------|--------------------------------|
| 授業科目名： 生活支援技術D | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 2単位 (演習) | 担当教員名： 生井美奈・齊藤裕美 担当形態：複数 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護 (生活支援技術) | | |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士 (通所介護・9年) | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>生活のあり方と営み方を考え、営みの基本を身につける</p> <p>食事の意義や個別性を尊重した食事を提供できるよう知識と技術を学ぶ</p> <p>被服生活、身じたくの意義を理解するとともにその具体的支援法を学ぶ</p> <p>住居生活の意義を理解し、自立に向けた住居環境整備の意味とその方法を学ぶ</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>家庭生活全般および衣生活・食生活・住生活について、その役割と機能を理解し、健康で快適な生活ができるような自立へ向けての援助方法を身につける</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：生活支援の理念と目的 人間の営みの意義</p> <p>第2回：家庭生活の営み 家庭経済・消費生活</p> <p>第3回：住まいの役割 安心して快適な課程生活の場づくり</p> <p>第4回：高齢者・障害者の住居自立に向けた住居環境の整備</p> <p>第5回：食生活の基本的知識 栄養の理解</p> <p>第6回：調理の基本、食品の基礎理解</p> <p>第7回：高齢者の食事・調理 障害者の食事・調理の理解 献立作成の演習</p> <p>第8回：被服生活の基本 被服の役割と機能の理解</p> <p>第9回：被服実習 被服生活に役立つ技術の演習 手縫いの基本</p> <p>第10回：被服実習 被服生活に役立つ技術の演習 小物作り 裁断から手縫い作業</p> <p>第11回：被服実習 被服生活に役立つ技術の演習 小物作り 手縫い作業から完成まで</p> <p>第12回：高齢者・障害者に向けた食事と調理の工夫 調理実習 基本編</p> <p>第13回：高齢者・障害者に向けた食事と調理の工夫 調理実習 実用編</p> <p>第14回：高齢者・障害者に向けた食事と調理の工夫 調理実習 応用編</p> <p>第15回：まとめ・授業総括</p> <p>定期試験</p> | | | |
| テキスト 新・介護福祉士養成講座「生活支援技術I」(第3版) 中央法規出版 | | | |
| 参考書・参考資料等 介護福祉士国家試験受験ワークブック下 | | | |
| <p>学生に対する評価</p> <p>出欠・遅刻・早退状況、筆記試験及び実技試験を行い、総合的に評価する(60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とする)</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------------------|---------------------|------------------------|
| 授業科目名： 生活支援技術E | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 1単位 (演習) | 担当教員名：黒木 久子 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護 (生活支援技術) | | |
| 担当教員の実務経験 | | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>応急手当の知識と技術を身につける。また災害時における生活支援について学び多職種協働の必要性について理解する。</p> <p>緊急時の対応ができるようになり連携のあり方を理解する</p> <p>人生の最終段階のとらえ方を学び介護の役割について考えることができる</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>緊急時に陥りやすい疾患とその対応方法を学ぶ</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：感染症について 概要</p> <p>第2回：感染症対策（施設・在宅）</p> <p>第3回：緊急時の対策 連携・心構え・応急手当・緊急連絡</p> <p>第4回：緊急時の対応 外傷</p> <p>第5回：緊急時の対応 骨折</p> <p>第6回：緊急時の対応 窒息</p> <p>第7回：緊急時の対応 熱傷（やけど）</p> <p>第8回：災害時における活動の心構え</p> <p>第9回：災害時における生活支援の重要</p> <p>第10回：人生の最終段階における介護の役割</p> <p>第11回：看取り期の連携・協働・家族について</p> <p>第12回：看取りケア ペインコントロール</p> <p>第13回：看取りケア グリーフケア</p> <p>第14回：看取りケア 死後の処置（エンゼルケア）</p> <p>第15回：定期試験</p> | | | |
| テキスト メヂカルフレンド社（介護の基本） 中央法規（生活支援技術Ⅰ・Ⅱ） | | | |
| 参考書・参考資料等 なし | | | |
| <p>学生に対する評価</p> <p>①出欠・遅刻・早退状況 ②筆記試験又はレポート課題以上2つの観点から総合的に評価する (60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とする)</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------------------|---------------------|-----------------------|
| 授業科目名： 介護過程 I | 学則に定める必修/選択の別 必修科目 | 単位数： 2単位 (演習) | 担当教員名：小林 根 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護 (介護過程) | | |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士 (特別養護老人ホーム・5年) | | |
| 授業の到達目標及びテーマ | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント能力を身につけ対象者のニーズを的確に把握できるようにする。 ・計画の立案と実践・評価の手順を理解し、授業で学んだ知識や技術を生かす方法を身につけるようにする。 ・対人援助における介護過程の意義と重要性について理解できるようになる。 | | | |
| 授業の概要 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程 I においては、介護過程の意義とその効果について講義し、ケアマネジメント等基本的な援助方法を解説してゆく。 ・事例を通し、対象者のありのままの状態を的確にとらえ、目標の設定と計画の立案方法を教授する。 ・事例を通し、ICFの視点に立った状態像モデルの記録方法やアセスメント用紙の記入方法を実践する。 | | | |
| 授業計画 | | | |
| 第1回：介護過程を学ぶにあたって (介護過程の意義と目的) | | | |
| 第2回：介護過程を学ぶにあたって (生活支援における介護過程の意義と目的について) | | | |
| 第3回：介護過程を学ぶにあたって (ICFと介護過程との関係) | | | |
| 第4回：介護過程を学ぶにあたって (介護過程のケアマネジメント・介護保険制度での意義) | | | |
| 第5回：介護過程を学ぶにあたって (介護過程における問題解決の特徴) | | | |
| 第6回：介護実践における介護過程の必要性 (介護過程の意味とその構成要素) | | | |
| 第7回：介護実践における介護過程の必要性 (介護過程の対象とその理解) | | | |
| 第8回：介護過程の理解と展開方法 (介護過程の全体像) | | | |
| 第9回：介護過程の理解と展開方法 (介護過程における情報収集とアセスメント) | | | |
| 第10回：介護過程の理解と展開方法 (介護過程におけるニーズの把握と課題の明確化) | | | |
| 第11回：介護過程の理解と展開方法 (介護過程における計画の立案と目標の設定) | | | |
| 第12回：介護過程の理解と展開方法 (介護過程における計画の実施と実施状況の把握) | | | |
| 第13回：介護過程の理解と展開方法 (評価の目的と方法) | | | |
| 第14回：介護過程における記録と報告の意義 (ICFモデルを使用した記録方法と介護過程のまとめ方) | | | |
| 第15回：テストと授業の振り返り | | | |
| テキスト | | | |
| 介護福祉士養成校座9「介護過程」 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| なし | | | |
| 学生に対する評価 | | | |
| 筆記試験を行い、60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」として評価する。 | | | |

| | | | |
|--|-----------------------|---------------------|-----------------------|
| 授業科目名： 介護過程Ⅱ | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 2単位 (演習) | 担当教員名：小林 根 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護 (介護過程) | | |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士 (特別養護老人ホーム・5年) | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の展開に必要な知識と技術を身につけ、科学的な理解のもとに介護過程に取り組む意義を認識する ・介護サービス利用者の生活環境を広い視点で捉え考慮した上で、自立に向けた介護過程の展開ができるようになる | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>実習Ⅱにおける介護過程の実践経験の振り返りを中心に、講義・グループディスカッション・レポート作成・事例検討などを通して、介護過程の実践的展開方法について多角的に学んでいく。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 後期授業展望、評価方法</p> <p>第2回：介護過程の実践的展開① 介護過程の展開における情報収集と分析に関する確認</p> <p>第3回：介護過程の実践的展開② 介護過程の展開におけるアセスメントに関する確認</p> <p>第4回：介護過程の実践的展開③ 介護過程の展開の実施に関する確認</p> <p>第5回：介護過程の実践的展開④ 実習での介護過程実践の振り返り① 実践事例の共有</p> <p>第6回：介護過程の実践的展開⑤ 実習での介護過程実践の振り返り② 実践事例をグループワークにて他者の見解を取り入れながら再構築</p> <p>第7回：介護過程の実践的展開⑥ 実習での介護過程実践の振り返り③ 報告会に向けての資料作成など</p> <p>第8回：介護過程の実践的展開⑦ 振り返りで再構築した介護過程実践事例の報告会</p> <p>第9回：自立に向けた介護過程の展開① 特養・老健入居者の事例に学ぶ</p> <p>第10回：自立に向けた介護過程の展開② 通所介護利用者の事例から学ぶ</p> <p>第11回：自立に向けた介護過程の展開③ 身体障害者療護施設入居者の事例から学ぶ</p> <p>第12回：自立に向けた介護過程の展開④ 訪問介護実習時の体験の共有事例を抽出しグループワークにて介護計画立案演習</p> <p>第13回：自立に向けた介護過程の展開⑤ 前回のグループワークを元に報告会</p> <p>第14回：専門職者として介護過程の展開の存在意義について考える。 課題に応じて自身の見解を小レポートの形で表現する</p> <p>第15回：チームアプローチ (多職種連携) の意義と実際</p> | | | |

チームにおける介護福祉士の役割をビデオ学習し、ケアマネージャー等との連携方法を学ぶ
介護過程全体を振り返り、専門職者としての自覚を促す

テキスト

介護福祉士養成校座9「介護過程」中央法規出版

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

①出欠・遅刻・早退状況 ②授業内レポート

③グループワーク・発表への貢献度

以上3つの観点から総合的に100点満点で評価を行い、60～69点を「可」、70～79点を「良」、80点以上を「優」とする。

| | | | |
|--|-----------------------|---------------------|------------------------|
| 授業科目名 介護過程 II | 学則に定める必修/選択の別 必修科目 | 単位数： 1単位 (演習) | 担当教員名：木田 茂樹 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護 (介護過程) | | |
| 担当教員の実務経験 | | | |
| 授業の到達目標及びテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職者としての実践的な介護過程の展開とは何か理解する ・ 介護過程におけるチームアプローチの実際について理解する | | | |
| 授業の概要 講義・グループディスカッション・レポート作成・事例検討などを通して、介護過程におけるチームアプローチの重要性と介護福祉士として求められる専門性について学んでいく。 | | | |
| 授業計画 第1回：オリエンテーション 後期授業展望、評価方法 第2回：ICFの基礎的理解 ICFとICIDHとの対比から 第3回：ICFと介護過程の関係 ICFの視点からの情報収集 第4回：利用者の生活と介護過程の展開 ①事例 在宅生活を営むALS患者のケース 第5回：利用者の生活と介護過程の展開 ②事例 独居高齢者のケース 第6回：利用者の生活と介護過程の展開 ③事例 精神障害のある人のケース 第7回：利用者の生活と介護過程の展開 ④事例 終末期の介護過程 (看取りと家族ケア) 第8回：利用者の生活と介護過程の展開 ⑤事例 終末期の介護過程 (評価と効果測定) 第9回：介護過程とチームアプローチ① ケースカンファレンス・サービス担当者会議の実際 実習場面からの振り返り 第10回：介護過程とチームアプローチ② 介護過程の展開における他職種との連携について 第11回：介護過程とチームアプローチ③ 関係職種それぞれの立場にわかれて模擬カンファレンス 第12回：介護過程とチームアプローチ④ 実習体験の共有→グループごとに一つの事例を抽出 第13回：介護過程とチームアプローチ⑤ 前回抽出した一事例をもとに介護過程の展開演習 第14回：事例検討発表会 グループごとに介護過程の展開事例発表 第15回：まとめと定期試験 | | | |
| テキスト | | | |

介護福祉士養成講座「介護過程」 中央法規出版

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

①出欠・遅刻・早退状況 ②授業内レポート

③グループワーク・発表への貢献度

以上3つの観点から総合的に100点満点で評価を行い、60～69点を「可」、70～79点を「良」、80点以上を「優」とする。

| | | | |
|---|-----------------------|---------------------|-----------------------|
| 授業科目名 介護総合演習（前期） | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 1単位 （演習） | 担当教員名：小林 根 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護（介護総合演習） | | |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士（特別養護老人ホーム・5年） | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>実習の意義が理解できると共に実習での基本的態度が身に付く。 施設の理解が深まり、専門職としての役割が分かる。 実習体験の意味付けができると共に介護観が構築できる。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>実習前には実習での基本的態度や施設についての理解を深め、実習課題を明確にする。 実習後には実習報告会や事例報告会において体験の意味付けをして知識と実践の統合を図る。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：実習の意義と目的 第2回：介護実習の種類について 第3回：実習全般の流れについて 第4回：実習施設の理解 介護老人福祉施設・介護老人保健施設 第5回：実習施設の理解 訪問介護・通所介護・グループホーム・障害者支援施設 第6回：実習記録や日誌のまとめ方 第7回：実習施設での感染予防・感染予防の実際 手洗い・ガウンテクニック 第8回：実習Ⅰの実習課題と目標について・必要書類 第9回：実習Ⅰの実習報告書作成・まとめ 第10回：実習Ⅰの実習報告会 第11回：実習Ⅱについての理解 第12回：実習課題と目標について・必要書類について 第13回：実習先の理解 グループワーク 第14回：実習終了後の記録の整理・お礼状の書き方第 第15回：筆記試験と振り返り</p> <p>定期試験</p> | | | |
| <p>テキスト</p> <p>新・介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」中央法規出版</p> | | | |
| <p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p> | | | |
| <p>学生に対する評価</p> <p>①出欠・遅刻・早退状況 ②課題レポート 以上2つの観点から総合的に評価する。 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とする。</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------------------|---------------------|------------------------|
| 授業科目名： 介護総合演習（後期） | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 1単位 （演習） | 担当教員名：遠藤由美子 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護（介護総合演習） | | |
| 担当教員の実務経験 | 看護師（病院・27年） | | |
| 授業の到達目標及びテーマ：実習の教育効果を上げるために、実習に必要な知識や基本的態度を身につける。 | | | |
| <p>授業の概要：実習前には実習での基本的態度や施設についての理解を深め、実習課題を明確にする。実習後には実習報告会や事例報告会において体験の意味付けをして知識と実践の統合を図る。【到達目標】①実習の意義が理解できると共に実習での基本的態度が身に付く。②施設の理解が深まり、専門職としての役割が分かる。③実習体験の意味付けができると共に介護観が構築できる。④研究の意義を理解できる。⑤研究過程について基本的な流れと方法を理解できる。⑥研究課題の焦点化と研究計画立案の方法について理解できる。⑦研究における倫理的課題について理解できる。⑧これまでに得た知識の統合を図り、コミュニケーション能力を磨き、問題を解決する能力や洞察力を養う。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：研究するとは</p> <p>第2回：具体的な研究のすすめ方 ①アイデアを形にしよう</p> <p>第3回： ②文献検索の方法を学ぼう</p> <p>第4回：③書き出したもの（アイデア）を調べてみよう</p> <p>第5回：④テーマの決定をしよう</p> <p>第6回：論文の諸形式</p> <p>第7回：個別指導（論文作成） ①パソコンを用いたデータ収集</p> <p>第8回： ②パソコンを用いたデータの整理</p> <p>第9回： ③パソコンを用いたデータの分析</p> <p>第10回： ④パソコンを用いた分析内容の検討・修正・提出</p> <p>第11回： ⑤不足データの収集</p> <p>第12回： ⑥データの再整理</p> <p>第13回： ⑦データの再分析</p> <p>第14回： ⑧全体の校正</p> <p>第15回： ⑨修正と提出</p> <p>定期試験 なし</p> | | | |
| テキスト：「よく分かる介護福祉研究入門―現場の気づきから課題解決、成果の共有、そして社会発信へ―」保育社 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| <p>学生に対する評価：①授業参加態度20点②卒業論文80点</p> <p>①②を合計し、80点以上「優」、70～79点「良」、60～69点「可」、59点以下「不可」とする。</p> | | | |

| | | | |
|--|-----------------------|---------------------|-----------------------|
| 授業科目名： 介護実習 I | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 1単位 (実習) | 担当教員名：生井美奈 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護実習 (介護実習 I) | | |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士 (通所介護・9年) | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別性を尊重した介護活動が実践できる能力を習得する。 ・ 利用者の生活の場である多様な介護現場について理解する。 ・ 利用者や家族とのコミュニケーションを通して利用者理解をするとともに基本的な生活支援技術を実践できる能力を養う。 | | | |
| <p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者・障害者に関わる各種制度における施設及び居宅サービス等において、実習を行う。 ・ 障害者訪問介護事業所において、訪問介護実習を行う。 ・ 利用者や家族とコミュニケーションを図り、自立支援、個別性について学ぶ。 ・ 多様な介護現場における多職種の役割および連携の方法を理解する。 ・ 介護福祉士の業務内容や職業倫理について理解する。 | | | |
| <p>授業計画</p> <p>以下の内容について、介護施設等で5日間の介護実習を行う。</p> <p>(1) 施設の概要を知るとともに利用者の生活環境や一日の生活を知る。</p> <p>(2) 基本的な生活支援技術の見学及び実施。</p> <p>利用者や家族とのコミュニケーションの方法について具体的に学び、実践する 利用者の個々の心身の状況に応じた生活支援技術の見学、実践。</p> <p>(3) 実習目標を明確にする。実習日誌の記録を通して、観察・考察をする。</p> <p>週一回指導担当教員が訪問し、実習生と面談をし、状況を把握する。 実習指導担当者との連携をし、実習が円滑に進むようにする。</p> <p>以下の内容について、1日間の訪問介護実習を行う。</p> <p>(1) 訪問介護の基本的態度について学ぶ。</p> <p>(2) 利用者やその家族について理解を深め、状況に合わせた身体介護や家事支援の方法について学ぶ。</p> <p>(3) 在宅介護の支援体制と多職種の連携について学ぶ。</p> | | | |
| テキスト 新・介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」(第3版) 中央法規出版 | | | |
| 参考書・参考資料等 新・介護福祉士養成講座「生活支援技術 I」(第3版) 中央法規出版 | | | |
| <p>学生に対する評価</p> <p>実習評価表の項目に従い施設の実習担当者が評価する。評価は4段階(A、B、C、D)評価とし、D評価の場合は実習終了が認められない。また巡回指導の様子や日誌等の提出状況を総合的に判断し60点以上の評価で合格とする。(60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とする)</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------------------|-----------------|-----------------------|
| 授業科目名： 介護実習Ⅱ | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 3単位（実習） | 担当教員名：生井美奈 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 介護実習（介護実習Ⅱ） | | |
| 担当教員の実務経験 | 介護福祉士（通所介護・9年） | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>介護実習の目標は個性を尊重した介護活動が実践できる能力を習得することにある。あらゆる学習の集大成であり、体験学習をとおして「命の尊さ」「人権意識」が芽生え、自らの人間性を育み専門職としての介護観や資質を養うことにある。</p> <p>介護実習Ⅱは、介護実習Ⅰの体験を踏まえて、一つの実習施設や事業所において一定期間継続して実習を行う中で、利用者の個性を尊重した介護計画を作成し、それに基づいた介護を実践した上で評価考察を加えるといった一連の介護過程の展開方法を学ぶ。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設の概要を知ると共に利用者の生活環境や一日の生活を知る。 (2) 利用者や家族とコミュニケーションを図り、利用者の個性を理解する。 (3) 多様な介護現場における基本的な生活支援技術の見学および実施。 (4) 施設内の各職種の役割および連携の方法について学ぶ。 (5) 利用者の健康状態や障害の部位を把握し、その状況に応じた生活支援技術を学ぶと共に介護計画を立案する。 (6) 利用者の「生活の質」を高める為の支援を理解する。 (7) 利用者への個別理解を深めながら、個別支援について学ぶと共に実施・評価までを含めた介護過程を展開する。 (8) 介護福祉士としての高い倫理性を身につける。 | | | |
| <p>授業計画</p> <p>以下の内容について、介護施設等で21日間の介護実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 以下の介護施設等の役割と機能を学ぶ。 介護老人福祉施設 介護老人保健施設 救護施設 障害者支援施設 (2) 施設の日課に沿って職員と行動を共にし、利用者の日常生活の支援を行う。 (3) 変則勤務や医務室、厨房などの業務も可能な範囲で体験する。 (4) 実習目標を明確にし、その日の指導担当者に伝える。 (5) ケース会議等に出来るだけ参加し、個別支援について学ぶ。 (6) 実習終了時、関係職員の参加を得て反省会を行う。 (7) 夜勤実習を1回行うこととする。 (8) 毎週1回教員が訪問し、実習指導担当者に実習生の状況を伺い、問題があれば速に対 | | | |

処する。また、実習が円滑に進むよう相談に乗り、介護過程の展開や記録の方法等について指導する。

テキスト 新・介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」（第3版）中央法規出版

参考書・参考資料等 新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅰ」「介護過程」（第3版）中央法規出版

学生に対する評価

「実習評価表」の項目に従い、施設の実習担当者が評価する。全体の評価は4段階（A,B,C,D）評価とし、D評価の場合は実習修了が認められない。また、巡回時の様子や日誌等の提出状況を総合的に判断し、60点以上の評価で合格とする。（60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とする）

| | | | |
|--|------------------------|---------------------|-------------------------|
| 授業科目名： 発達と老化の理解 | 学則に定める必修/選択の別 必修科目 | 単位数： 2単位 (講義) | 担当教員名：遠藤 由美子 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | こころとからだのしくみ (発達と老化の理解) | | |
| 担当教員の実務経験 | 看護師 (病院・27年) | | |
| 授業の到達目標及びテーマ：発達の観点から老化を理解し、老化による心理的変化や身体的変化の特徴について、基礎知識を習得する。 | | | |
| 授業の概要：人間の一生の中での老年期を意識しながら、老化による心身の変化や環境の変化が及ぼす様々な影響について理解を深め、高齢者への援助の基本を学ぶ。【到達目標】①誕生から死に至るまでの正常な成長・発達と各期の課題と援助について理解する。②正常な発達を理解した上で、加齢による心身の変化や喪失体験などについて知り、どのような配慮や支援が必要かを考える。③高齢者の人格と尊厳を守る援助の基本について理解できる。④高齢者に多い疾患や老化による機能低下とそれらが日常生活へ及ぼす影響を理解し、日常生活支援技術の根拠となる知識を習得できる。 | | | |
| 授業計画 | | | |
| 第1回：オリエンテーション (授業の進め方・成長・発達の考え方) | | | |
| 第2回：発達段階と発達課題 | | | |
| 第3回：心理的機能の発達 | | | |
| 第4回：老年期の定義 | | | |
| 第5回：老化に伴う身体的な変化と生活への影響①生理機能・身体機能・骨・筋・感覚器 | | | |
| 第6回：老化に伴う身体的な変化と生活への影響②消化器・生殖・内分泌 | | | |
| 第7回：老化に伴う心理的な変化と生活への影響 記憶・パーソナリティー・動機付け | | | |
| 第8回：老化に伴う社会的な変化と生活への影響 | | | |
| 第9回：高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点①骨・筋肉・脳・神経・感覚器 | | | |
| 第10回：高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点②：循環器・呼吸器 | | | |
| 第11回：高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③：歯・口腔・悪性新生物・感染症 | | | |
| 第12回：高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④：精神疾患・その他 | | | |
| 第13回：高齢者に多い病気その留意点⑤脳・神経系 | | | |
| 第14回：保健医療職との連携 (グループワーク) | | | |
| 第15回：振り返りとまとめ筆記試験 | | | |
| 定期試験 | | | |
| テキスト：最新・介護福祉士養成講座12 「発達と老化の理解」 中央法規 「介護福祉士 国試ナビ2019」 中央法規 | | | |
| 参考書・参考資料等 なし | | | |
| 学生に対する評価： ①筆記試験70点②授業参加態度10点③小テストの総合点の10% (最高10点) ④提出物10点 ①②③④の合計点で、80点以上「優」、70～79点「良」、60～69点「可」、59点以下「不可」とする。 | | | |

| | | | |
|--|-----------------------|---------------------|------------------------|
| 授業科目名 認知症の理解（前期） | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 2単位 （講義） | 担当教員名：木田 茂樹 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | こころとからだのしくみ（認知症の理解） | | |
| 担当教員の実務経験 | | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症ケアの歴史と現状および認証の原因疾病の理解。 ・ 認知症の行動障害が出現する背景について理解し、具体的なケアの実践につなげる方法を学ぶ。 ・ 認知症の人を支える家族への支援、認知症ケアに対する地域社会のサポート体制について理解する。 | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>講義形式だけでなく、グループディスカッション・VTR視聴・レポート作成・事例検討などを通して、認知症の人を取り巻くケア環境とそのケア方法について多角的に学んでいく。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 前期授業展望、評価方法</p> <p>第2回：認知症を取り巻く状況 ①認知症ケアの歴史</p> <p>第3回：認知症を取り巻く状況 ②認知症ケアの理念と視点</p> <p>第4回：認知症を取り巻く状況 ③認知症ケアの現状と課題</p> <p>第5回：医学的側面から見た認知症の基礎 ①認知症の原因疾病</p> <p>第6回：医学的側面から見た認知症の基礎 ②認知症の中核症状と周辺症状</p> <p>第7回：医学的側面から見た認知症の基礎 ③認知症の人の行動・心理症状</p> <p>第8回：医学的側面から見た認知症の基礎 ④認知症の診断と治療</p> <p>第9回：医学的側面から見た認知症の基礎 ⑤認知症の人の世界観を想像してみる ロールプレイ</p> <p>第10回：認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ①認知症の人の特徴的な心理・行動</p> <p>第11回：認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ②認知機能の変化が日常生活に及ぼす影響について</p> <p>第12回：認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ③実習体験から事例を持ち寄り、グループディスカッション</p> <p>第13回：認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④VTR鑑賞 『明日の記憶』（松井久子監督）</p> <p>第14回：認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ⑤VTR鑑賞振り返り 事例検討</p> <p>第15回：まとめと試験</p> | | | |

テキスト

介護福祉士養成テキスト 「認知症の理解」 建帛社

参考書・参考資料等

学生に対する評価

①出欠・遅刻・早退状況 ②課題レポート

③定期試験

以上3つの観点から総合的に評価する。

(60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とする。)

| | | | |
|--|-----------------------|---------------------|-----------------------|
| 授業科目名： 認知症の理解（後期） | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 2単位 （講義） | 担当教員名：木田茂樹 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | こころとからだのしくみ（認知症の理解） | | |
| 担当教員の実務経験 | | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症ケアの歴史と現状および認証の原因疾病の理解。 ・ 認知症の行動障害が出現する背景について理解し、具体的なケアの実践につなげる方法を学ぶ。 ・ 認知症の人を支える家族への支援、認知症ケアに対する地域社会のサポート体制について理解する。 | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>講義形式だけでなく、グループディスカッション・VTR視聴・レポート作成・事例検討などを通して、認知症の人を取り巻くケア環境とその実際のケア方法について多角的に学んでいく。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 後期授業展望、評価方法</p> <p>第2回：認知症の人に対する介護 ①認知症の人とのコミュニケーション</p> <p>第3回：認知症の人に対する介護 ②認知症の人への心理的アプローチ</p> <p>第4回：認知症の人に対する介護 ③認知症ケアの目的</p> <p>第5回：認知症の人に対する介護 ④認知症の人のターミナル</p> <p>第6回：認知症の人に対する介護 ⑤認知症の人の権利 成年後見制度</p> <p>第7回：連携と協働 ①地域におけるサポート体制</p> <p>第8回：連携と協働 ②チームアプローチの実際</p> <p>第9回：家族への支援 ①家族の認知症の受容過程での援助</p> <p>第10回：家族への支援 ②家族へのレスパイトケア</p> <p>第11回：家族への支援 ③家族介護の実際 事例から考える。</p> <p>第12回：家族への支援 ④家族介護の実際 事例から考える・グループワーク</p> <p>第13回：認知症ケアの事例検証 実習体験から事例を抽出し、グループで検討会を行う</p> <p>第14回：認知症ケアの事例検討発表会 グループごとの事例検討の結果を発表会の形で共有</p> <p>第15回：まとめと定期試験</p> | | | |
| <p>テキスト</p> <p>介護福祉士養成テキスト 「認知症の理解」 建帛社</p> | | | |
| <p>参考書・参考資料等</p> | | | |
| <p>学生に対する評価</p> <p>①出欠・遅刻・早退状況 ②課題レポート</p> <p>③定期試験</p> <p>以上3つの観点から総合的に評価する。 (60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とする。)</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------------------|---------------------|------------------------|
| 授業科目名： 障害の理解 | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 2単位 (講義) | 担当教員名：信川 京子 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | こころとからだのしくみ (障害の理解) | | |
| 担当教員の実務経験 | | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>障害の概念や障害者福祉の基本理念を学ぶ。また、介護と福祉士として、障害のある人の気持ちを理解するとともに、障害のある人の支援を行う基礎的な知識を身につける。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>障害のある人の心理や身体機能を理解し、地域や家族を含めた障害のある人の生活支援について、環境にも配慮した介護上の留意点を習得することを目指します。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、障害の概念</p> <p>第2回：障害者福祉の基本理念</p> <p>第3回：障害者福祉に関連する制度</p> <p>第4回：障害のある人の心理、肢体不自由</p> <p>第5回：視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害</p> <p>第6回：内部障害</p> <p>第7回：内部障害、重症心身障害</p> <p>第8回：知的障害</p> <p>第9回：精神障害</p> <p>第10回：高次脳機能障害・発達障害</p> <p>第11回：難病</p> <p>第12回：連携と協働</p> <p>第13回：家族への支援</p> <p>第14回：まとめ</p> <p>第15回：定期試験</p> | | | |
| テキスト：最新介護福祉士養成講座14「障害の理解」中央法規 | | | |
| 参考書・参考資料等：厚生労働省ホームページ、見て覚える介護福祉士国試ナビ 中央法規 国民の福祉と介護の動向 2018/2019 厚生労働省統計協会、障害者白書 内閣府 | | | |
| <p>学生に対する評価：出欠・遅刻・早退（10点）、提出物・発表・小テスト（20点） 授業態度（10点）、試験（60点）、総合的に評価します。</p> | | | |

| | | | |
|---|-----------------------|----------------------|-----------------------|
| 授業科目名： 心とからだのしくみA | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 1 単位 (演習) | 担当教員名：佐藤大輔 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 心とからだのしくみ (心とからだのしくみ) | | |
| 担当教員の実務経験 | | | |
| 授業の到達目標及びテーマ 人の心的機能や人体の構造、生理的機能を理解する。 | | | |
| 授業の概要 介護は思いつきか感覚ではなく、理論や根拠に基づいて行われる。この科目では「なぜそのやり方で介護を行うのか？」という根拠の部分について学習する。 | | | |
| 授業計画 第1回：脳・神経系の解剖生理学的理解 第2回：大脳の局在機能、記憶、学習、欲求について 第3回：循環器系の解剖生理学的理解 第4回：血管と血液の解剖生理学的理解 第5回：呼吸器系の解剖生理学的理解 第6回：消化器系の解剖生理学的理解 (消化管) 第7回：消化器系の解剖生理学的理解 (肝臓、膵臓、胆嚢) 第8回：腎・泌尿器系の解剖生理学的理解 第9回：骨・筋系の解剖生理学的理解 第10回：内分泌系の解剖生理学的理解 第11回：欲求 (マズローの欲求階層説) 第12回：記憶の機能 第13回：学習の機能 第14回：適応機制 第15回：試験とその解説・国家試験対策 定期試験 | | | |
| テキスト 介護福祉士養成講座 11 心とからだのしくみ 中央法規出版 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 学生に対する評価 試験80%、平常点20% 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とし、単位を認定する。 | | | |

| | | | |
|---|---------------------------|---------------------|-----------------------|
| 授業科目名： こころとからだのしくみB | 学則に定める必修／選択の別 必修科目 | 単位数： 1単位 (演習) | 担当教員名：佐藤大輔 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | こころとからだのしくみ (こころとからだのしくみ) | | |
| 担当教員の実務経験 | | | |
| 授業の到達目標及びテーマ 要介護者の日常生活上の支援を実施するためのエビデンスを学習する。 | | | |
| 授業の概要 介護は思いつきか感覚ではなく、理論や根拠に基づいて行われる。この科目では食事や排泄、入浴等の日常生活動作、終末期を過ごす要介護者を支援するための理論や根拠に焦点を当て学習する。 | | | |
| 授業計画 第1回：移動に関連したこころとからだのしくみ 第2回：移動に関連したこころとからだのしくみの実際 第3回：身支度に関連したこころとからだのしくみ 第4回：身支度に関連したこころとからだのしくみの実際 第5回：食事に関連したこころとからだのしくみ 第6回：食事に関連したこころとからだのしくみの実際 第7回：入浴・清潔に関連したこころとからだのしくみ 第8回：入浴・清潔に関連したこころとからだのしくみの実際 第9回：排泄に関連したこころとからだのしくみ 第10回：排泄に関連したこころとからだのしくみの実際 第11回：休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ 第12回：休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみの実際 第13回：人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ 第14回：人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみの実際 第15回：試験とその解説・国家試験対策 定期試験 | | | |
| テキスト 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ 中央法規出版 | | | |
| 参考書・参考資料等 | | | |
| 学生に対する評価 試験100% 60～69点を「可」・70～79点を「良」・80点以上を「優」とし、単位を認定する。 | | | |

| | | | |
|---|-----------------------|---------------------|-------------------------|
| 授業科目名： 医療的ケア (通年) | 学則に定める必修/選択の別 必修科目 | 単位数： 2単位 (演習) | 担当教員名：遠藤 由美子 担当形態：単独 |
| 介護福祉士養成課程の区分 | 医療的ケア (医療的ケア) | | |
| 担当教員の実務経験 | 看護師 (病院・27年) | | |
| 授業の到達目標及びテーマ：人のからだのしくみについて理解をし、吸引や経管栄養の方法を十分に理解し、安全で安楽な吸引や経管栄養を実施出来る知識や技術を身につける。 | | | |
| 授業の概要：医療的ケア実施に当たり、基礎知識として関連制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握の方法などについて知識習得をする。 喀痰吸引では、人体の構造と機能及び吸引を行う部位の確認、小児の吸引、急変時の対応などを習得する。また演習において、喀痰吸引実施に必要な基礎知識と実施手順を繰り返し行う。経管栄養では、人体の構造と機能及び経管栄養を行う部位の確認、小児の吸引、急変時の対応などを習得する。また、演習において経管栄養実施に必要な基礎知識と実施手順を繰り返し行う。【到達目標】医療的ケアの意義が説明できる。個人の尊厳と自立について説明が出来る。医療的ケアを受ける利用者や家族の気持ちの理解が出来る。安全に喀痰吸引や経管栄養の実施が出来る。高齢者や障害児・者の医療的ケアの必要性について理解が出来ており説明が出来る。感染予防の重要性と必要性について説明が出来る。 | | | |
| 授業計画 | | | |
| 第1回：オリエンテーション 人間と社会 (個人の尊厳と自立 医療の倫理 利用者や家族の気持ちの理解) | | | |
| 第2回：保健医療制度とチーム医療 | | | |
| 第3回：清潔保持と感染予防①感染予防 職員の感染予防 療養環境の清潔・消毒法 | | | |
| 第4回： ②実習室の使い方 演習：実際に手を洗ってみよう | | | |
| 第5回： ③滅菌と消毒 | | | |
| 第6回：健康状態の把握 | | | |
| 第7回：演習：実際にバイタルサインを測ってみよう | | | |
| 第8回：高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ①呼吸のしくみと働き | | | |
| 第9回： ②喀痰吸引とは | | | |
| 第10回： ③演習：実際に器具を手にとりさわってみよう | | | |
| 第11回： ④人工呼吸器と吸引 | | | |
| 第12回： ⑤子どもの吸引について | | | |
| 第13回： ⑥吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 | | | |
| 第14回： ⑦演習：実際にロールプレイを行ってみよう | | | |
| 第15回： ⑧呼吸器系の感染と予防 (吸引と関連して) | | | |

第16回：喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持吸引の技術と留意点
第17回：① 演習（DVDを見ながらやってみよう）
第18回：② 演習（繰り返し行ってみよう）
第19回：③ 演習（読み上げリードに沿ってやってみよう）
第20回：④ 演習（何度も留意点を確認しよう）
第21回：⑤ 演習（実技テスト・補講）
第22回：喀痰吸引にともなうケア 報告及び記録
第23回：喀痰吸引ヒヤリハット・アクシデントの実際 演習
第24回：安全な療養生活 ①喀痰吸引の安全な実施
第25回：②急変状態について（いつもと違う呼吸状態・急変・事故発生時の対応と事前対策）
第26回：喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認・喀痰吸引まとめテスト（筆記）
第27回：高齢者および障害児・者の経管栄養概論 ①消化器系のしくみとはたらき消化
第28回：②吸収とよくある消化器の症状
第29回：③経管栄養とは
第30回：④注入する内容に関する知識
定期試験

テキスト：医療的ケア メジカルフレンド社

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価：

I ①課題レポート・提出物10点 ②まとめテスト(吸引(前期)・経管栄養(後期)・総合(後期))}テスト3回(1回30点)合計90点

①②を合計し、80点以上を「優」・70～79点を「良」・60～69点を「可」・59点以下を「不可」とする。

II 演習 厚生労働省基準に準じ、(1手技を5回行い、5回目のテストで全項目に○がつくことで合格。5手技あり、すべて同じ。)すべてできて合格とする。

IかつIIの条件を満たすことで単位を認める。

| | | | |
|---|---------------|------------|-----------------|
| 授業科目名： 医療的ケア (通年) | 学則に定める必修/選択の別 | 単位数： 単位 | 担当教員名： 担当形態： |
| 介護福祉士養成課程の区分 | | | |
| 担当教員の実務経験 | | | |
| 授業の到達目標及びテーマ： | | | |
| 授業の概要： | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第31回： ⑤経管栄養実施上の留意点</p> <p>第32回： ⑥子どもの経管栄養について</p> <p>第33回： ⑦経管栄養に関する感染と予防</p> <p>第34回： ⑧経管栄養に必要なケア</p> <p>第35回： ⑨経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応</p> <p>第36回： 急変時の対応と事前対策・経管栄養ヒヤリハット・アクシデント・報告・記録</p> <p>第37回： 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持・経管栄養の技術と留意点</p> <p>第38回： ①演習 (DVDを見ながらやってみよう)</p> <p>第39回： ②演習 (繰り返し練習しよう)</p> <p>第40回： ③演習 (読み上げリードに沿ってやってみよう)</p> <p>第41回： ④演習 (何度も留意点を確認をしよう)</p> <p>第42回： ⑤演習 (実技テスト・補講)</p> <p>第43回： 経管栄養により生じる危険・注入後の安全確認・経管栄養まとめテスト (筆記)</p> <p>第44回： 急変・事故発生時の対応と事前対策・救急蘇生</p> <p>第45回： 振り返りとまとめテスト (筆記)</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト：</p> <p>参考書・参考資料等</p> <p>学生に対する評価：</p> | | | |